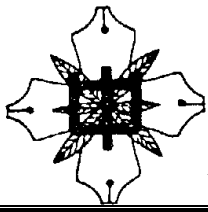


【教育目標】 将来をみつめ「学び考える力」「自他を大切にできる心」「たくましく生きる力」を育てよう



# 十中だより

平成27年11月19日 発行 第7号

発行者:中野区立第十中学校

## 涙を流すということ

11月の学校説明会で十中の沿革(歴史)に触れた。以下、その概略である。

昭和29年4月、校舎建築が間にあわず、堀越高校を間借りして開校。第1学年のみの365名、5学級で第十中学校がスタート。借りた教室のサイズが不揃いで、83人のクラスもあれば、22人のクラスもあった。22人のクラスは事務室を教室に転用していた模様。

同年7月20日、中野区塔山3丁目7番地に総建坪275.5坪、木造モルタル2階建校舎が完成。建築費は725万円。5クラスから6クラスに再編成される。

その後、戦後のベビーブームで生徒数は増加の一途を辿り、昭和36年には1420名(29学級)の規模に達するも、少子化の影響を避けることができず、平成18年は新入生18名、平成20年は全校生徒98名(3学級)に落ち込む。

18名の入学者の一人である“53期生”の高坂さんは、当時を次のように振り返っていた。

「・・・大変だったことは行事関係。体育祭ではクラスを2つに分けたため、生徒は競技をしているか、係りの仕事をしているかで、応援席はさびしい状態だった。校外学習で団体割引が適用されない施設もあった。卒業期に体育館の工事が行われていたため、卒業式を十中で実施できないことに先生方に猛反発をした。その時、原校長先生の涙の謝罪を見て、言葉が出なかった・・・」

(開校60周年記念誌より)

以上

原先生の涙の件について関前校長(現北中野中校長)に話したら、「原先生はよく泣くんだよなあ!」の解説。自分もどちらかと言えば涙もろい方だが、最近では、これまでも増して涙腺の緩むこと頻繁である。人間の涙もろさというものは、本人の性格もあるが、年齢、環境、時代に影響支配されていることは確かだ。

時代といえば、ある葬儀関係者によると「最近、葬儀で泣く人が少なくなった。涙ぐむ人はいても、嗚咽までする近親者の姿をほとんど見なくなった」とのこと。ただ、日本人が泣かなくなったのはどうも最近のことではない。作家・司馬遼太郎は幕末の歴史小説「世に棲む日々」の中で次のようなことを書いている。

「人間は近代に入ると泣かなくなった。中世ではよく泣いた。人間の感情は現代より遥かに豊かで、激すれば死をも恐れぬかわり、他人の秘話を聞いたり国家の窮迫を憂えたりするときは感情を抑止することができない」

中世(鎌倉幕府の成立から江戸時代の始まり)よりもはるかに下った時代である幕末や明治維新、司馬は小説の中で、吉田松陰、高杉晋作、坂本龍馬、西郷隆盛等が大泣きしている場面を描写している。では、感情豊かで、泣き虫だった日本人が泣かなくなった理由は何か。作家・五木寛之氏はこう指摘し

ている。

「泣くとか、涙を流すといったことは浪花節的、歌謡曲的、演歌的、義理人情の世界として排除され、笑いとユーモアと明るさがプラス思考として正面に押し出されてきた。しかし、そのような湿式社会から乾式社会への一方的な転換の中で、いま改めて、失われてきたものの大きさを感ぜずにはおれない」

前回の「十中だより」と通じるものがあって、「我が意を得たり」の思いを強くした次第である。

最後、話を“53期生”に戻すと、原先生の涙を見た高坂さんたち卒業生は、「最高の卒業式にしよう」と心に誓い、真剣に練習に取り組み、そして、感動の卒業式を実現した」と記念誌に記している。

人間が泣くと、涙が出る。アンデルセンは、「涙は人間がつくるいちばん小さな海」と述べている。

原先生がつくられた“小さな海”は、今も、そして、これからも53期生の心の中に在り続けるに違いない。



## 2年移動教室を実施



10月22～23日の2日間、第2学年は鎌倉及び横浜方面への移動教室を実施しました。

中野区の中学校は、今後、1学年山中湖移動教室、2学年軽井沢スキー教室、3学年修学旅行と全学年で宿泊行事を実施することになっています。2学年は、すでに軽井沢スキー教室を実施しているため、特例措置として鎌倉・横浜への移動教室を実施しました。

移動教室1日目は、修学旅行を見据え班ごとに中野坂上駅に集合した後、東京駅に向かいチェックを受けました。その後、JR横須賀線を利用して鎌倉へ向かい、指定された3箇所のいずれかで昼食をとりながら市内班行動を行ない、宿舍のホテルまでバスで移動

しました。ホテルではテーブルマナー教室が行なわれ、緊張しながらもディナーのフルコース！？を堪能しました。

2日目は、横浜大栈橋でクラス集合写真を撮影し、カップヌードルミュージアムでチキンラーメンを作り、横浜みなと博物館の芝生の丘でお弁当を食べ、同博物館を見学しました。

解散式で述べましたが、芝生の上でお弁当を食べている光景が、美しく描かれた絵画のように見えました。正に、「爽やかな学年」の面目躍如といったところです。2学年の成長を実感できた移動教室でした。



## 薬物乱用防止教室を実施 ～ダメ・ゼッタイ！～

10月23日（金）、第3学年では東京中野ライオンズクラブ及び中野警察にお出でいただき、「薬物の恐ろしさを知り、薬物乱用防止への強い意志と行動力を身につける」ことを目的に薬物乱用防止教室を実施しました。

覚せい剤等の違法薬物は依存性が強いばかりでなく、一度使用するだけでも乱用になり、同時に犯罪になります。危険ドラッグを使用して交通事故を起こした、或いは薬物の使用で自らの命を失うという事件や事故が多発していることはご存じのことと思います。



当日、生徒はこうした違法薬物の怖さと乱用防止についての講演を聞いたり、DVDを視聴したり、薬物の恐ろしさを学びました。

最後には、薬物乱用防止を推進するための標語「ダメ！ゼッタイ！」を全員で大きな声で唱和し、薬物乱用防止教室を締めくくりました。

## 軽可搬ポンプ操法大会 十中が優秀賞を受賞

11月1日（日）、爽やかな秋晴れの下、中野区江古田の森公園において中野区町会連合会主催第34回軽可搬消火ポンプ操法・バケツ消火リレー大会が実施され、野方消防署管内の町会及び区内11の全中学校が参加し、練習の成果を披露しました。



十中は、野球部2年の五味君、青柳君、田村君、大澤君が

部活動の合間を縫って中野消防署宮園出張所に赴き、署の方から軽可搬消火ポンプ操法の指導を受け、練習に取り組みました。

当日、十中生は一際きびきびと迅速かつ的確にポンプ操法を行い、中学校で唯一の優秀賞に輝きました。

おめでとうございます。



## 今年も十中まつり開催！

11月1日（日）、本校においてPTA主催「十中まつり」が開催されました。

開催に先立って和太鼓部が校庭で、終了時には吹奏楽部が体育館で演奏を行い、まつりに華を添えました。

当日は、十中生をはじめ、保護者及び地域の皆さん、関係小学校の皆さん、他校のPTAの皆さんなど大勢の方々が本校を訪れてくださり、大変な賑わいを見せていました。



また、各ブースでは、PTAの方々に混じって十中生がボランティアとして一生懸命活動し、まつりを支えてくれました。

十中まつりは本校の創立60周年の記念行事を支援するために実施されたPTA行事でした。本来であれば、昨年でその目的を果たし、まつりは終了する予定でした。しかし、60周年行事を終えても、十中PTAの本校に対する熱い思いは一向に冷める様子もなく、十中まつりは今年度も当然のように開催されました。

まつりの開催にご尽力をいただいた関係各位に感謝申し上げます。



## 小中連携教育を進めています

すでに、「未来への一步」や学年だより等でお知らせしている通り、十中は昨年度からの2年間、「中野区教育力向上事業」の指定を受け、小中連携教育推進モデル校として塔山小学校及び谷戸小学校と共に研究に取り組んでいます。

今年度は、これまでに行ってきた「オープンキャンパス」や「乗り入れ指導」の充実はもとより、3校が、「学力向上」「体力向上」「心の教育の充実」に向けて指導法の研究及び交流を通して、学びの連続性や統一性を意識した教育活動を行っています。

なお、「中野区教育力向上事業」の研究発表会を1月22日(金)に実施する予定です。

## 消防庁より感謝状

十中が行っている防災教育及び救命救急教育に対して東京消防庁より感謝状をいただきました。お知らせいたします。



## 女子バスケットボール部 新人大会3位!

女子バスケットボール部は中野区中学校バスケットボール新人大会で3位の成績を収めました。日ごろの練習の成果以外の何物でもありません。おめでとうございます!

## 保護者アンケートへのご協力をお願いします

今年度も「平成27年度学校教育に関する保護者アンケート」をお願いする時期となりました。

毎年行なっているこのアンケートは、本校が学校としての教育機能をどの程度果たしているかを保護者の皆様に直接評価していただき、その結果を踏まえて今後の教育活動の改善・充実・向上を図っていくための資料とさせていただきます。

今年度は、質問項目を昨年度までの46項目から29項目に減らし、回答にかかる時間や手間を省くようにいたしました。また、アンケートに対するご回答を三者面談の折にいただく予定です。本校教員の「凡事徹底」にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、ご協力いただいたアンケートについては、後日集約し、結果については十中だよりやホームページ等でお知らせする予定です。

大変お忙しい折とは存じますが、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。